

# 恵みと真理のニュース



2014年3月の四次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養5洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】

## 傷ついた葦を折ることなく暗くなってゆく灯心を消すことない 主の驚く愛

私は子供の頃親について教会に行きました。教会学校で振り付けと賛美をしながら先生からたくさん褒められて、また兄の友達も私をいとおしんでくれました。また賛美歌“あなた達もこの花のように心がきれい”を頑張って歌ったことが今もその記憶が生きて残っています。私が教会学校で習った賛美を歌ったり主の祈りを覚えたりすると親も喜びながら私のため祈ってくれました。父親の体が不変で幼い私が家の走り使いをよくしました。しかし、少しでも大変ではなかったし親を恨んだこともなかったです。イエスを信じ頼り尊い信仰が成長したからです。

青年になって1978年結婚しました。ところが新婚の甘い夢は短くて神様を信じない家庭の一人子である旦那と田舎で姑と嫁入り暮らしをしながら様々な苦難が多かったです。年は取りましたが世の中の事は全然知らなくてただ姑の主観のとおり生きて来ました。“教会に通いたいです。”と言えない家庭の雰囲気でした。そのなかで姑は私に“お寺であなたの名前で祭祀を捧げた、知っておいてね。”と言いました。あきれたことでした。私の人生はもっと困り切って暗澹としました。

その頃隣の村に小さい教会が立てられました。夜になるとその教会の十字架の光が遠くても一目で入りました。“神様、この暗い環境を変えてください。私を助けてください。！十字架をみ涙を流しながら祈りました。

“神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。”(ヨハネの福音書3:16) 御言葉と記憶に残っている聖句を黙想しながら切に神様の恵みを求めました。

歳月が流れてアンサンで引越して過ごしているとき隣の家に住む区域長の伝道で恵みと真理教会に通うようになりました。主を畏れる人々の望みをかなえ/叫びを聞いて救ってくださいます。主を愛する人は主に守られ/主に逆らう者はことごとく滅ぼされます。”

(詩篇 145:18, 19) ハレルヤ！ たとえ多くの時間が立ちましたが神様は私を忘れないで区域長を通して私を教会に導いてくれました。偶像崇拜をして生きて来た頑な姑の心まで開いてくださいました。子供の教育のことで職場に通っていき最初は姑にかしずいて区域礼拝だけようやく参加しました。次第に教会の全ての礼拝へ参加する事を熱心になり説教の御言葉を通して信仰が成長して信仰生活にもっと頑張りました。区域長の職分も受けて女性奉仕連合会で奉仕しました。たとえ、生活はあいかわらず大変で職場に通うため体は疲れても礼拝を捧げることが出来た主のことをするのが喜びで感謝でした。姑が救われて天国に召されたことは神様が与えてくださった奇跡でした。願えない時でも私が願い信じたとおりに神様がこなしてくれました。その時はアンサン聖殿が立てられる前でしたので姑はアンサンまで行って洗礼を受け私と家族のため祈りながら平安な生活をして天国に召されました。

葬式をする時、過去偶像崇拜をするなかでわたしを迫害したがイエス様を受け入れ私のため祈ってくれた姑の姿を思い出しながら人間的な悲しみと神霊な喜びで万感が交差しました。

ある日、原因が分からなく酷い頭痛が来ました。陣痛剤をいき三回も飲んで陣痛は続きました。様々な治療を受けましたが治らなかつたです。MRIの精密検査を受けた結果は脳梗塞でした。神様を信じながら耐え忍んでまた、聖徒の祈りの仲で5年間続けて治療を受けて治ったのですが、つい油断して治療を疎かにしてまた病気が悪化されました。弱り目に祟り目で旦那が20年間通った職場をやめなければならなかつたので経済的に苦しくなりました。旦那が家畜と運輸業する牧場へ車を持って入って口蹄疫騒ぎの時に一度に6,000匹の豚を殺処分するようになり、会社がドアを閉めなければならぬ状況になりました。 **ビッグ・ウエーブ ビッグ・ウエーブ**

多くのお金をかけて新しくインテリアをして2年も立ってない家まで押収され、競売で他の人の手に入り借金だけ残るようになりました。

“ようやく家を借りて毎日のように戦々恐々として暮らしました。目を上げて、わたしは山々を仰ぐ。わたしの助けはどこから来るのか。わたしの助けは来る/天地を造られた主のもとから。”(詩篇121:1, 2) “主を待ち望め/雄々しくあれ、心を強くせよ。主を待ち望め。”(詩篇27:14) 誰でも助けてくれない時切なく主に手を上げ主を仰ぎました。すると2010年になり神様の恵みで旦那が職場に入り再び仕事を始めて会社も活気を捜して繁盛し始めました。日を追って家畜が増え新しくハウスを作って道も作り必要な設備も入れ、農場が拡張されていきました。そして、以前のように完全に回復され家庭の物質的な困難から逃れることになりました。神様の恵みはそればかりでなく“しかし、わが名を畏れ敬うあなたたちには僕の太陽が昇る。その翼にはいやす力がある。あなたたちは牛舎の子牛のように躍り出て跳びまわる。”(マラキ書3:21) “主は御言葉を遣わして彼らを癒し/破滅から彼らを救い出された。”(詩篇107:20)

御言葉の通り神癒の恵みが私に臨みました。もう脳梗塞と貧血の症状が悪化されず生活する時不便がなくなるように神様が治して守ってくださいました。そして、辞めていた教会の奉仕もまたはじめました。今まで人生を通して傷ついた葦を折ることなく暗くなってゆく灯心を消すことない主の愛を誰よりも深く悟り真実で哀れみと豊かな愛の主に感謝を捧げます。

暗い人生の夜中でも明るい命の光になってくださり神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働いてくださり感謝と賛美をするようにしてくださる主を愛します。何よりも私の名前が天国の命の本に記録して下さり日々、聖書で心を豊かにさせる主の恵みを賛美します。主が私を呼ぶその日まで主の事に力を入れ神様の栄光のため生きます。



【信仰コラム】

## 祈りに関する歪曲された概念と主張

“また祈るする時に異邦人と一緒につべこべとしてはいけな私達は言葉をたくさんしなければ聞こえとできと思うべし…”(マタイ福音書6:7, 8)

信仰の言葉に対する誤った概念は信仰生活に障害になって混乱をもたらします。お祈りに関する誤った概念も重大な被害をもたらします。お祈りに関して歪曲された概念と主張する論理をおよそ三つに分けることができます。まず、“神様は私たちのすべて都合と事情をわかっているから、あえて何がほしいという祈りをする必要がない”という主張があります。

このような主張をしている人たちはマタイによる福音書6枚7, 8節の言葉を彼らの論理を支える根拠になります。

しかし、この言葉でイエスが何を求める祈りを禁じられることじゃなくて、つべこべとする祈りを禁じています。

信念もなく、単に礼拝儀式を進めるためにする祈り、切実な気持ちがない祈りがつべこべとする祈りです。聖書の中にも神様に何かをほしいという祈りしなくてもいいという言葉はないです。一方、神様に何をくれと祈ってということはいくらでもあります。神様は私たちが祈りをするのを待っていて、その回答することをお喜びです。

次は、“聖徒は世の中を得ようと祈りしてはならない。ただ霊的なことを思慕して力を尽くして求めなければならぬ”という主張があります。

自分の健康のために祈って、経済的な安定、社会生活でより良い位置に達するために祈ることは肉体を充足させるための祈りです。

**このような祈りが正しくないという主張する理由**は“キリスト人は助けを求めて、天国民になったのだから、この世の中に執着してはならない。世の中では欲もなく生きなければならない。与えられた現実に満足していることに最善を尽くして生きていけばいい。

その理想を追求すると、だんだん世の中に心を奪われて心的に鈍いことになる。”と同じ考えから始まったのです。しかし神様は私たちにこの世の中に生きていながら、福音を伝わり隣人を助けることに積極的に行動するようにしました。

津津浦浦をさすらい歩いて万民に福音を伝わり苦しい人を助けるためにお金がいなければなりません。自分が貧乏するため、豊かさを求めるのは聖徒に適しません。しかし、神様が命じられたことを忠義に行なうため努力しなければなりません。

最後に、“自分の都合と能力の限界の中で最善を尽くそうと祈りするのはいいが、奇跡を求めるのは正しくない”という主張があります。聖徒は過度な欲を出さないほうがいいです。

なぜならこの世の中に旅人で生きているという事実を認識しているからです。だから一生懸命働きながら、一方ではありのまま自足した生活をしなければなりません。貪心を持って仕事を推進することを禁止する理由はありません。ただ、私たちが分からなければならぬことが3つあります。一番目は、分に応じて何事もの都合に合わせて一歩ずつ進むものの、以上は大きく持つ必要があります。二番目は期待したことが叶わなくても落胆してはなりません。

私の望んだ通り、なることがよくなるのではなく、神様が欲しいとおりによくなることです。三つめは、私達がどんなに多くのことを求めても神様には微たるものという事実です。

皆さんは祈りに関して歪曲された主張を非難して概念と定義を持ってください。祈ることを大きな特権と考えて何でも神様に祈念してください。何事にも最善を尽くしながら神様がくれた能力で求めてください。それで、皆さんに祈りする楽しさが日々に加わることを願います。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

## 私の分かることは 今は見えるということです

“あなたがイエス様を救世主に信じる理由を言ってください。”という要求に対してこんな見習うのを適用して答えて見るようにします。

**第一に、万物の起源と存在理由を確かに分かるようになったことがすぐこれですと答えなければなりません。**

聖書はイエスキリストに対して記録された本です。イエスキリストがおっしゃるのを“あなたがたは、聖書の中に永遠の命があると思って調べているが、この聖書は、わたしについてあかしをするものである。”(ヨハネによる福音書 5:39) しました。聖書には“すべてのものは、これによってできた。できたものうち、一つとしてこれによらないものはなかった。”(ヨハネによる福音書 1:3) しました。ここで言う“これ”はイエス様を示すのです。イエスキリストを信じれば聖書をすべて信じるようになって、創造主が分かるようになって、万物の起源と存在理由が分かるようになるわけがここにあります。

“はじめに神は天と地とを創造された。”その聖書の始まったことは人間は創造主が分かることに始めなければならないということを書いてくれます。聖書の初文章はすべての福の根源になる神様の現存の中に私たちを導きます。神様は自分の存在を証明しようと思わないです。神様が作った万物が神様を証明しています。聖書に記録されるのを“もろもろの天は神の栄光をあらわし、大空はみ手のわざをしめす。”(詩篇 19:1) しました。神様の建てた世界を私たちが観察して見れば豊かで多様で精緻な模様で驚くようになります。そして秩序と調和、美しさと神秘感に感歎を禁ずることができません。

**二番目で、罪が何で罪問題の解決策が何やら私が確かに分かるようになったことすぐこれですと答えなければなりません。**

人間は誰も罪の問題に対しては自由ではないです。聖書は罪が何で罪問題の解決策が何やら扱っています。聖書をはなれ去ってはここに関する完全な知識を得ることができません。人が罪人になったわけを大きくふたつに分けることができます。第一は自分の行為と無関係なのです。二番目は罪を犯しながら暮すからです。人類は一つ血統になっています。最初の先祖はアダムです。アダムは神様に罪を犯して罪人になりました。これによってアダムの子孫たちは皆罪人で生まれるようになります。ある時代人でも罪の思いがあり罪の問題解決を追い求めているという事実もこれを証明します。人には罪の性向があるからどの社会でも道德の規範があって法が存在しています。聖書には罪人には神様の震怒がとどまっています結局罪人は審判を受けて滅亡するようになるということを明らかに啓示しています。これは不正でもだめです。拒否することができない運命です。

ところでこのような運命から脱するようになる道が提供されました。神様の救いの恩寵がイエスキリストによって提供されました。このために罪のない神のイエス様が私たちの罪を代わりに担当して十字架に釘つけられたし死から復活しました。そして誰でもイエスキリストを信じれば罪の赦しを受けるようになって永生を得て神様の子になって天国に入ることができるようになりました。

“私は罪が何で罪の問題の解決策が何やら確かに分かりました。その解決策がイエスキリストです。イエスキリスト外には解決策がないです。だから私はイエスキリストを信じて愛しながら仕えます。”と言えます。

**三番目で、死が何で死の以後の生に対して私が確かに分かるようになったことすぐこれですと答えなければなりません。**

聖書は死と死後の仕事に対して人が分からなければならない必要があることは皆知らせてくれます。死は肉身と魂の分離です。世の中に住むうちに罪の問題を解決受けることができなかった人の魂は地獄に行き、イエスキリストを信じて罪の問題が解決された人の魂は天国に行きます。そして将来身が復活するようになります。復活は二つの様相を持ちます。生命の復活と審判の復活です。善良な事を行った者は生命の復活をして悪い仕事を行った者は審判の復活をするようになります。ここで言う善良な事と悪い仕事と言うのはイエスキリストを信じることと信じないことを意味します。生命の復活をする聖徒は地獄の刑罰に処する審判台の前には立たないです。聖徒の復活した身は老けて病んでけがをして死ぬこととは無関係な身です。強い身であり神霊な身です。イエスキリストを信じる人はその魂が復活した身を着て天国で永遠に住むようになります。

目を開くようになったその人がイエス様を向けて信仰の告白をするを見てイエスキリストがおっしゃるのを“「わたしがこの世にきたのは、さばくためである。すなわち、見えない人たちが見えるようになり、見える人たちが見えないようになるためである」。(ヨハネによる福音書、9:39)” しました。イエスキリストを信じれば今まで見られなかった人が見えるようになります。神霊なことを見るようになります。一方にイエスキリストを信じなければ自分は見ると言うが事実は神霊なことを全然見られないまま住んで行って審判を受けて滅亡するようになります。“見られない者等は見るようにする。”というイエス様のお話は救い得るために必ず分からなければならないことに対して分かるようにして下さるという意味を持っています。目を開くようになったその人がパリサイ人たちに“ただ一つのことだけ知っています。わたしは盲であったが、今は見えるということです”と言いました。イエス様は彼に肉身の視力を取り戻すようにしたのみならず彼をまた会ってイエス様が誰かを見る目も開いてくださいました。

聖徒 皆さんは“前には見られなかったことを神様の恵みで私は今は見ます。”と言える人になりました。ここで見るという言葉は悟って分かる意味を持っています。イエスキリストを真実に信じる人は誰もこんなに言えます。イエス様は前には見られなかった私を今は見えるようにして下さいました。神霊な真理が分かるようにして下さいました。“私は万物の起源と存在理由を確かに分かるようになりました。私は罪が何で罪の問題の解決策が何やら確かに分かるようになりました。私は死が何で死以後の生に対して確かに分かるようになりました。”皆さんは皆確信を持ってこんなに言えるように願います。

エルサレムのある道をとおっておられるとき、生れつきの盲人になった人が座ってこじきしていました。イエスキリストが弟子たちとともにその所を通り過ぎていた途中その盲人を注意深く見て身近に近付きました。そして地につばきをし、そのつばきで、どろをつくり、そのどろを盲人の目に塗って言われた、“「シロアムの池に行き洗いなさい」盲人が起きてシロアムに行き洗いました。すると驚きべきが起こりました。即時で彼の目が明るくなりました。彼が帰って来ると人々が驚いて質問するのを“おまえの目はどうしてあいたのか” しました。彼は答えるのを“イエスというかたが、どろをつくって、わたしの目に塗り、『シロアムに行き洗いなさい』と言われました。それで、行って洗うと、見えるようになりました。” しました。

人々が盲人になった人を連れてパリサイ人たちに行きました。パリサイ人たちもその人に“おまえがどのようにして見るようになったのか?” と問いました。彼は少し前に人々に言ったことと等しい返事をしました。彼らは盲人になった人に言うのを“神に栄光を帰するがよい。あの人が罪人であることは、わたしたちにはわかっている。盲人になった人がパリサイ人たちに言いました。“「あのかたが罪人であるかどうか、わたしは知りません。ただ一つのことだけ知っています。わたしは盲であったが、今は見えるということです。」” 彼らがまた問うのを“その人はおまえに何をされたのか。どんなにしておまえの目をあけたのか。” すると目を開くようになった人が胆大に言いました。“わたしの目をあけて下さったのに、そのかたがどこからきたか、ご存じないとは、不思議千万です。

神は罪人の言うことはお聞きいれになりませんが、神を敬い、そのみこころを行う人の言うことは、聞きいれて下さいます。生れつき盲であった者の目をあけた人があるということは、世界が始まって以来、聞いたことがありません。もしあのかたが神からきた人でなかったら、何一つできなかったはずですが”パリサイ人たちはその困境を免れようと“「おまえは全く罪の中に生れていながら、わたしたちを教えようとするのか」。そして彼を外へ追い出した。パリサイ人たちがその人を外で追い出したということを知られた。そして彼に会って言われた、「あなたは人の子を信じるか。」” しました。彼が答えるのを“神様、その方がどなたですか? 私がその方を信じます。” しました。イエスキリストが彼におっしゃるのを“おまえが彼を見たし、今お前と言っている人がまさに彼だ。” しました。すると彼が明確に言うのを“神様、私が信じます。” してイエス様にお辞儀をしました。

この話の中で“私が一つ分かることは私が見られなかったり今は見えるということです。” という陳述はイエス様を信じる理由を問う人々に私たちがどんなに答えるはずなのかを見せてくれるお手本になります。